

当園ではこの度、令和2年度の砂川幼稚園学校評価として、教職員での自己評価及び学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人一人が、自らの教育活動や日々の教育内容そして園運営の状況を振り返ることで、自分たち自身そして園全体を見つめ直す機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、職員一同で話し合うことにより、教育活動の成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価及び学校関係者評価の結果を真摯に受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 教育目標

園是「あかるく・すなおで・すこやかに」を教育目標に掲げ、整えられた環境の中で教育を行い、集団生活で子ども達一人一人の発達に応じた主体的活動を通して総合的に指導をし、個性を重んじ、身も心も健全にのびのびと発達させて美しい性情を培い、ご家庭の教育と相俟って小学校教育を受けることのできる様に基礎をつくります。

## II. 今年度の重点目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

- \*教育、保育活動を充実させる
- \*教職員の協力や連携体制を強化する
- \*安全管理を強化する

## III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	取組み状況
1	教育方針・目標	園の方針や目標について、保護者の理解を促すように取り組んでいる。	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの教職員全体の会議において、教育方針の確認や教育目標を策定している。</li> <li>・月2回「園だより」を発行し、その月の保育のねらいや行事等の通知をしている。また、学年ごとに保育目標を定め、その目標を達成するための活動などを「園だより」に載せて、保護者に伝えている。</li> <li>・学期末懇談会の実施により、個々に応じた指導方針や目標を保護者と共有する。</li> </ul>

2	教育課程の編成	園の教育課程・指導計画は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しが行われている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間カリキュラムの作成時において、実情に即した内容と計画であるかを議論し、月間・週間カリキュラムへと見直しを行っている。</li> <li>・教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているか、教職員間で話し合い見直していく。</li> <li>・行事開催において、自園で運動会、生活発表会を行い、子ども達が慣れた環境で日頃の練習の成果を最大限に発揮できるようにした。</li> </ul>
3	指導計画の作成と評価	教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任を組織し、さらに主任・副園長・園長と保育をチェックし、評価・指導を行う。</li> <li>・学年ごとの目標を決め、3年間を通して多くの経験を積み、様々な面で成長できるようカリキュラムを組んでいる。</li> <li>・職員朝礼時や放課後に教職員間での話し合いを行い、意見交換や助言をしながら保育の向上に向けて取り組んでいる。</li> <li>・教育・指導に対して、共通認識を大切にする姿勢を大切にしながら、個性を尊重し合える関係性を作っている。</li> <li>・管理者は、各クラス保育日誌により日々の保育を理解し、担任と共有するよう努めている。</li> </ul>
4	教育環境の構成	幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の年齢に応じた運動遊び、教材（おべんきょうちょう、かずあそび）、絵画制作や音楽等の表現活動に取り組んでいる。</li> <li>・机と椅子を常時配置し、自分の居場所のある安心感を持たせると共に、けじめをつける意識を高めている。</li> <li>・園舎建て替えにより教室が広くなったので、ゆとりのスペースができ、教育内容に応じて活用している。</li> <li>・園庭の広さを活用し、自由にのびのびと遊べる環境作りをしている。</li> <li>・学園所有の農園で栽培している野菜を収穫している。（例年実施するクッキングは中止した。）</li> </ul>
5	指導とかかわり	幼児の気持ちに共感しながら、一人一人の思いを把握し、良さを認め、褒めてあげることで、目標を持たせ、自信をつけるようにしている。自ら考え、工夫することができるよう見守る。年齢や	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登降園時に、ロビー、教室で一人ひとりの視診やスキンシップを行い、子どもの健康状態や様子、気持ちを理解するよう努めている。</li> <li>・週1回「オープンクラス」を実施し、異年齢の子ども達が一緒に遊び、関わりを持つ時間を持っている。</li> <li>・年齢に応じた絵画制作、教材、体力測定などを通して、発達段階にあった援助をするように努めている。</li> <li>・挨拶、返事、人の話を聞く、自分の思いを言葉で伝える等基本的なことを積み重ね、コミュニケーション力を</li> </ul>

		発達に応じた関わり方をしている。		<p>養っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立心を養いながら一人一人の個性や良さを伸ばせるよう、発達段階や特性に応じた指導、援助を行っている。</li> <li>・今年度は4、5月が自主登園となり、入園式後から徐々に積み重ねていくしつけ面や情緒の安定、信頼関係構築などが難しいことがあった。特に新入園児については新しい生活に慣れ、園が心地よい場所になるよう個々に応じて支援した。</li> <li>・コロナウィルス感染防止の為マスクを着用しているが、職員の表情が子ども達に見えない分、言葉がけをよりわかりやすくし感情が伝わるよう努めた。</li> </ul>
6	教職員同士の協力・連携	幼児について常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、担当を超えて保育に関わり、協力し合うチームワークを大切にしている。</li> <li>・特に問題や課題のある幼児について職員間での話し合いを密に行い、情報共有に努めて全体で注視する環境を構築し、家庭環境も理解しながら、より深く支援できるよう努めている。</li> <li>・保育に関して、一人で悩みを持たないためにも保育日誌を利用し、主任教諭が日々チェックし、適切な助言を行える環境がある。</li> </ul>
7	研修・研究への取り組み	配慮が必要な幼児に対する保育のあり方について、専門機関と連携を図りながら、研修研究を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な幼児に対する支援の仕方、接し方等について、外部研修や書籍などを通して学んでいる。</li> <li>・必要に応じて専門機関に相談し、助言が得られるよう連携をとっている。</li> </ul>
8	安全衛生への配慮	トイレの清掃やトイレの正しい使い方を具体的に示している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレのスリッパの並べ方や、トイレットペーパーの使い方等を子ども達に教え、皆が気持ちよく使えるよう意識させている。</li> <li>・トイレを衛生的に保つよう、清掃を徹底させている。</li> <li>・昼食後歯磨きをし、歯の健康の大切さを知らせている。</li> <li>・正しいうがいや手洗い（指の間、手首等も）を紙芝居や手遊びを通して具体的に指導し、自主的に行うよう徹底させている。</li> <li>・コロナウィルス感染防止対策の為、ドアや机等の消毒や教室の換気等に留意した。</li> <li>・マスクのつけはずしや衛生的な管理に気をつけるよう指導した。</li> </ul>
9	安全管理体制の整備	緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症マニュアルを整備し、教職員間で理解し合い、共通理解を持てるように努めている。</li> <li>・感染症などが流行する時期に合わせて、机やおぼん等の消毒を行っている。また、保護者に予防対策を伝え、意識を高められるよう取り組んでいる。</li> </ul>

		んでいる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症予防についての知識を持ち、真夏以外にも水分補給を促したりしている。</li> <li>・定期的に火災と地震の避難訓練を実施し、緊急時対応の手順の理解を深めるよう取り組んでいる。</li> </ul>
10	安全管理体制の整備	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコの下に安全マットを敷く、ジャングルジムで遊ぶ時は子ども達から目を離さないようにするなど、安全に遊べるための配慮をしている。</li> <li>・スクーターや三輪車、竹馬などの道具を整理整頓して片付ける工夫をし、安全に出し入れ、使用できるようにしている。</li> <li>・転倒等怪我の起こりやすい箇所はないか常にチェックし、施設、遊具、砂場の玩具等の安全点検を行い、事故を未然に防ぐ体制を整えている。</li> <li>・子ども達が危険な遊びをしないよう、特に遊具の使い方にはルールを設け教えている。</li> </ul>
11	安全管理体制の整備	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に門を閉め、ロビーの扉を施錠し、来園者をカメラ付きインターホンで対応し、保護者や園関係者であることを確認して不審者による防犯を行う。</li> <li>・今後は、専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。</li> </ul>
12	安全管理体制の整備	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登園時や着替え、身体測定時に視診を行い、子ども達の様子・状態を確認するようにしている。</li> <li>・児童虐待について、外部研修で学んだり専門機関と連携をとったりし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。</li> </ul>
13	保護者への協力と支援	保育参観や懇談会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育参観や個人懇談を通して、園での様子やご家庭での様子を話し合い、共通理解を持てるよう取り組んでいる。</li> <li>・日々の出席ノートや電話連絡、また連絡票を活用して、保護者と連携がとれるようにしている。また、必要に応じて、主任、副園長、園長が担任に助言する体制も作っている。</li> <li>・園からのお知らせやお願いは園だよりに記載し、行事等が円滑に行えるよう、楽しい園生活が送れるよう保護者に協力をあおいでいる。そして、何よりも子ども達の成長を共に喜び合える関係になれるように努めている。</li> <li>・月一回クラス通信を発行し、行事や活動の様子やクラスの成長や課題を知らせている。また、担任の子ども達への思いや家庭で協力してもらいたいことを伝える一つの手段として活用している。</li> </ul>

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

## IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成・評価の充実	教育課程が一人一人の子どもの発達に反映されているか、また、地域や小学校の実態に応じた指導計画が作成されているかなど、教職員間で話し合い見直しを行う。
2	保育の質の向上	保育の向上に向けた教職員間の話し合い・情報共有の機会を充実させていく。指導案の確認やクラスの状況などを共有し合う。
3		研修に積極的に参加し、知識などを学ぶとともに、教師間で情報共有し、現場で実践できるように取り組む。
4	保育環境の充実	自然物を工夫して遊びの素材にして遊びや、戸外遊びでのボールや砂場遊びの遊具、絵本などの充実を検討していく。
5		園児たちの縦の繋がりを大切にし、年齢による関わり方を楽しめるような活動など、工夫した取り組みを充実させていく。
6	保護者との連携の強化	家庭における子どもとの関わり方や様子などの把握について充実させ、子どもたちの理解を深めていく。
7	防災対策の強化	避難訓練を実施することで、全員で避難経路や手順を確認しあい、スムーズに実施できるようにする。今後は、予期される地震発生を想定した訓練に取り組む。
8	安全管理体制の強化	感染症等が流行する時期に合わせて、保護者の方にも予防対策などをお伝えし、意識を高めるよう取り組む。
9		定期的に施設・設備・遊具の安全点検を行い、事故の発生を未然に防ぐことができる体制を整える。
10		専門機関との連携を通して、不審者侵入時の対応手順についての共通理解を深める。
11		児童虐待について、外部研修や専門機関と連携をとるなどし、発見のポイントや具体的対応方法などの理解をさらに深める。

## V. 学校関係者の評価

新年度早々コロナウィルス感染症に伴い緊急事態宣言が発出され、4、5月は自主登園となりました。行事や活動の中止や延期、やり方を変更しての実施等過去に経験のないことが多く、園にとってもそれぞれの対応に困難があったと思います。子どもの安全を最優先にし、幼児期に必要な経験をできるだけさせられるよう配慮し、対策を取りながら可能な限り実施した意義は大きかったと思います。

また年度途中での保育必要量の変更（特に1号から2号へ）が多く管理は大変ですが、働く保護者にとって子どもが施設を変わることなく保育を受けられたことは、認定こども園としての役割を十分に発揮できていると言えます。

コロナ禍の中でまだまだ厳しいですが、教育と保育両面の一層の充実を期待します。